

日本遺産「忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めてー」構成文化財の追加認定について

令和2年度「日本遺産」認定において、甲賀市と伊賀市が申請者となっている 日本遺産「忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めてー（平成29年度認定）」のストーリーを構成する文化財について、追加の認定が発表されました。

甲賀百人組ゆかりの寺(長福寺・称名寺・多聞寺・唯称寺・慈眼寺)

甲賀百人組は、幕府お抱えの鉄砲隊で、慶長5年の関ヶ原の戦いの直前、伏見城で徳川方として戦い多くの戦死者を出した「甲賀衆」がそのルーツである。

百人組ゆかりの甲賀の五か寺は、彼らの子孫たちによる嘉永2年の伏見籠城戦250回忌法要の場となったが、今もその時の墓石や位牌が大切に守り伝えられている。

伏見籠城戦から250年目にあたる嘉永2年(1849年)に、百人組与力・同心の代表者が訪れ、籠城戦で戦死した先祖の250回忌法要を幕府の援助を受けて行った。江戸にいた甲賀百人組と甲賀にいた甲賀古士は、法要準備のために連絡を取り合っており、両者は立場が違えど、時間や場所を超えたつながりがあった。



【長福寺】（甲賀市甲賀町田堵野）



【称名寺】（甲賀市甲賀町滝）



【多聞寺】（甲賀市甲賀町鳥居野）



【唯称寺】（甲賀市水口町宇田）



【慈眼寺】（甲賀市甲南町野田）